

社会貢献預金(笑顔プラス)の寄付先団体の活動をご紹介します。

近畿ろうきんは、社会貢献預金(笑顔プラス)の取組みを通して、被災地支援や障がい者支援、子育て支援、女性・マイノリティ支援、環境保全、国際協力などの活動を行う、NPO・市民団体を応援しています。

認定NPO法人いくの学園(大阪地区) 《女性・マイノリティ支援》

いくの学園は、府立の婦人保護施設から民間団体に生まれ変わってから20年以上経ちます。DVや虐待、性暴力等の社会問題に取り組むため、相談支援(電話相談・法律相談等)とシェルター(暴力から逃れて一時的に住み、生活を立て直す安全な場所)を運営し、LGBTも含めて様々な被害当事者や周囲の人たちが安心して相談できる場をめざしています。

2020年度は、新型コロナウイルスの感染対策を取りながら、のべ267人の大人と子どもがシェルターを利用しました。病院や裁判所、不動産業者等に一緒に出向き(計104件)、日本語が不自由な外国籍の方には通訳も付けて、生活再建に寄り添いました。

2018年からは毎年11月に大阪府主催、近畿ろうきん・連合大阪・当学園との共催で、女性に対する暴力の問題とその解決に向けたセミナーを開催しています(写真)。暴力の後遺症は長

理事長 雪田 樹理



年続く場合もあるので、過去の被害について相談場所を求めている人もおられます。身近なところから暴力の問題に気づき、困っている人を支援につないでいくことが求められています。

NPO法人 CODE海外災害援助市民センター(兵庫地区) 《国際協力・被災地支援》

私たちCODEは、1995年の阪神・淡路大震災を機に設立されたNGOです。震災の時、世界約70の国と地域からご支援をいただいたお返しに被災地KOBEから世界へ支援を開始しました。これまでアジアや中南米を中心に35の国と地域で、現地の人たちと共に住宅再建や雇用創出など63回の復興支援活動を行ってきました。

2020年、世界で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症でも、CODEは中国武漢で高齢者や障がい者の買物や送迎の支援をするボランティアをオンラインで支え、フィリピン台風の被災地でもコロナで困窮した子どもたちへの食糧提供を行う女性たちの取組みも支援しました。

コロナ禍では、平素から厳しい状況にある人たちが、より厳しい状況になった事が明らかになりました。CODEは、コロナ禍も災害ととらえ、取りこぼされている「最後のひとりまで」を支える事

代表理事 室崎 益輝



を大切に活動しています。2020年度は、近畿ろうきんとの共催でオンライン企画「コロナとこれからの市民社会に向けて～SDGs・若者・災害の視点から～」も実施しました。



社会貢献預金(笑顔プラス)は、「預金者の寄付負担(金利引下げ分の利息相当額)」と「ろうきんの拠出金」の合計額を地域のNPO・市民団体に寄付を行う定期預金です。

※商品の詳細は、当金庫ホームページをご覧ください。また店頭の商品説明書をご用意しています。

近畿ろうきんFacebookページ
<https://www.facebook.com/kinkirokin/>



近畿ろうきんFacebookページでは、社会貢献預金(笑顔プラス)の寄付先団体の活動状況などを随時公開しています。